西郷どん ゆかりの町 高須を歩く

古くから港町として栄え、西郷どんが宿泊した高須には、中世から現代に至るまでの歴史が多く残っています。

ここ数年、高須では「まち歩き」による地域活性化と観光誘客の取り組みが行われています。皆さんも、西郷ゆかりのまち・高須をゆっくりと歩いてみませんか。

昨年建てられた案内看板とまち歩きガイドの皆さん。
看板の高さは、西郷どんの身長と同じ178cm。

高須まち歩きガイド

平成29年に誕生した「高須まち歩きガイド」。高須の町を一緒に歩きながら、西郷にまつわる話や旧国鉄大隅線の話といった歴史などを楽しく紹介しています。地元の茶菓子によるおもてなしも。

◎**対応人数**＝3～42人　◎**ガイド料**＝有料(参加者数に応じる)
◎**申込方法**＝ガイド希望日の2日前までに、鹿屋市観光協会ホームページから直接入力又は電話
問 鹿屋市観光協会 ☎0994-41-7010　http://kanoyashi-kankokyokai.jp/

❶西郷南洲翁宿泊地の碑

西郷隆盛が宿泊した田中邸跡には記念碑が建立されている。ここを拠点に、西郷は狩りなどへ出かけた。

❷西郷岩（キス岩）

高須橋近くの崖に見える通称「キス岩」。昨年、西郷隆盛の子孫が「西郷岩」と呼んだことも話題に。

❸高須町民会館（大隅高須駅跡）

旧国鉄大隅線の駅跡に建ち、まち歩きの際にも立ち寄れる。今春に高須の歴史展示コーナーができる予定。

❹常平倉跡（じょうへいそう）

島津斉彬が藩主就任後にまず取り組んだのが米価の安定。高須の常平倉には、大隅中部から米が集められた。

西南戦争時は、現在の高須港辺りに官軍（別働第一旅団）が上陸し、大隅半島での戦いにおける拠点となった

大隅での西郷・西南戦争を巡る

鹿屋・大隅には、ここで紹介するもの以外にも、ゆかりの地があります。皆さんも探してみてはいかがですか。

©pref kagoshima

鹿屋市

霧島ヶ丘公園茶室（南洲庵）

西郷隆盛が宿泊した高須の田中邸の一部を用いて建てられた。西郷が使用した手水鉢（ちょうずばち）やタンスが展示されている。

肝付町

肝付町立歴史民俗資料館

西郷隆盛が高山の波見（はみ）に泊まった際に着たとされる「かいまき」が展示されている。

鹿屋市

明治拾年役（じゅうねえき）従軍者記念碑

古前城町公民館の隣に建つ碑。鹿屋郷から西南戦争に出兵した人たちの名前が刻まれている。

南大隅町

西郷南洲翁宿泊の家

西郷が私学校の弾薬庫襲撃の知らせを聞いた、小根占での宿所。西郷の銃が暴発した跡も残る。

曽於市

岩川官軍墓地

大隅での西南戦争の激戦地となった百引での戦いなどでの官軍戦死者約80人が眠る。

イベント

輝北町文化講演会「西郷隆盛と大隅」

◎**内容**＝明治維新に功績を残した西郷隆盛と大隅の関わりをひもとく講演会
◎**講師**＝東川 隆太郎（りゅうたろう）氏（かごしま探検の会代表理事）
◎**日時**＝2/4（日）　13:00～16:00
◎**場所**＝輝北コミュニティセンター
◎**入場料**＝無料
問 輝北総合支所住民サービス課
☎ 099-486-1111 内線 2203

西郷隆盛が生きた時代の主な出来事

和暦	（西暦）	西郷隆盛の生涯	日本・薩摩の主な動き	鹿屋での主なできごと
文政10	1828	鹿児島城下の下加治屋町に生まれる		
弘化元	1844	藩の郡方書役助となる		市成産の名馬に「市成栗毛」と名がつく
嘉永元	1848			藩主斉興が東目20郷を巡視
嘉永2	1849		お由羅騒動	
嘉永4	1851		島津斉彬が藩主となり、集成館事業を開始	
嘉永5	1852	スガと結婚		藩主斉彬が義弟久光に串良付近の窮状を調査・対応するよう指示
嘉永6	1853		浦賀にペリー来航	藩主斉彬が花岡・大姶良・鹿屋など巡視
安政元	1854	小姓に昇進し、藩主斉彬に従い江戸に上る		
安政4	1857	徒目付（庭方兼務）となる		
安政5	1858	月照と入水自殺を図るも一命をとり止める	日米修好通商条約 安政の大獄 島津斉彬死去	
安政6	1859	奄美大島で潜居、愛加那と結婚		
万延元	1860		桜田門外の変	
万延2	1861	長男・菊次郎が誕生		
文久2	1862	奄美から召還も、島津久光の命に背いたため、徳之島・沖永良部島へ配流	島津久光が率兵上京 生麦事件	
文久3	1863	和泊の座敷牢に入る	薩英戦争	鹿屋周辺の郷士が海岸線の警備にあたる
元治元	1864	沖永良部島から召還	禁門の変	
慶応元	1865	イトと結婚		
慶応2	1866		薩長同盟	
慶応3	1867		大政奉還 王政復古の大号令	
慶応4	1868	東征大総督参謀として勝海舟と会談、江戸城無血開城	戊辰戦争勃発 江戸が東京となる	
明治元	1868		明治天皇が即位	大隅各地からも戊辰戦争に出兵
明治2	1869	鹿児島藩参政に就任	各郷に常備隊が置かれる 廃仏毀釈が徹底される	高崎正風が最後の地頭に就任
明治3	1870	鹿児島藩大参事に就任		百引麓立て始まる
明治4	1871	新政府において参議となる	廃藩置県の実施	大隅国が都城県に属する
明治5	1872		新橋～横浜間に鉄道開通	郷校が各地に設置される
明治6	1873	陸軍大将兼参議に就任 朝鮮半島への使節派遣中止により参議を辞する	徴兵令の発布 岩倉使節団帰国	都城県の廃止に伴い、大隅国は鹿児島県に編入
明治7	1874	鹿児島の武村の自宅に帰る 鹿児島に私学校を設立	佐賀の乱	姶良郷校が新築移転
明治10	1877	小根占で火薬庫襲撃を聞く 高須を発ち、西南戦争へ 城山に籠城するも官軍の総攻撃により自決（50歳）	木戸孝允死去	大隅からも多数出兵 官軍が高須に上陸 百引や串良などで戦い

※参考文献：「鹿屋市史」「輝北町郷土誌」「串良町郷土誌」「吾平町誌」など　※明治5年の太陽暦採用までは旧暦で記載